

# カトリック 仙台教区報

2004年7月4日 発行 No.158  
 発 行 カトリック仙台司教区  
 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12  
 Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378  
 発行責任 広報委員会  
 URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

## 仙台教区を去るにあたって

溝部 脩司 教

3年と10ヶ月の短い仙台教区滞在となつてしまいました。短期間で移動しなさいという規定ですので、慌ただしく最後の日々を過ごしています。従つてこの4年間で何であつたのかを振り返る余裕すらありません。ただ遣り残したことは沢山あり、それがとても心残りです。また、会つて今日までよくして頂いたお一人お一人に感謝の言葉を述べたいのですが、それも叶いません。この紙面をお借りして『ありがとうございます』のことに代えさせて頂きま

す。私がこの4年間目指したのは、多くの改革より内的生活の刷新にありました。教会を通して信仰生活を深め、充実させることこそ最大の関心事だと理解したからです。そのために組織や機構の改革には手が及びませんでした。また人とのかわりを信仰の目で見ること

強調しました。教会は単なる人間の集まりではないからです。これに関しては、最後に「人権を考える



川崎師の叙階式に集まった司祭たちと溝部司教

してあつてはならないことです。東北の良さは、物事をまじめに考えて、それを慎重に実行していく誠実さにあります。私はこの土地に滞在して、よく学んだことです。新しい赴任地では、この経験が生けると信じています。少し時間がかかっても、確実に歩むという習慣は大したことです。しかし、別の観点から見ると、柔軟性が少なく、瞬時に適応する能力に欠けるという恐れがあります。仙台教区の今後の歩みで、確実な実行性と、柔軟に適應する力が与えられるようにお祈りしたいと思います。

最後になりましたが、今日まで協力を惜しまなかった司祭の皆様、また司教不在の時が訪れますが、気持ちの一つにして教区を盛り上げてくださるようお願いいたします。常に支え、励ましてくださった修道者、信徒の皆様、私は東北で司牧者として働くことが出来たことを最高の誇りに思っております。皆様こそ教区の力です。今から仙台教区を建設することに向けて励んでください。

### 塩と光

▼救いの歴史は、長い旧約時代から、ついにイエスの時代(終わりの時代)に入りましたが、イエスが天に昇られてからは、いよいよ聖霊の時代が始まりました。▼先ず、イエスは次のように約束してくださいました。「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください」(ヨハネ14・16)と。▼「弁護者」とは、「助けるために呼び寄せられた者」を意味していますので、聖霊こそが、わたしたちを助けるために常に待機しておられるのです。さらに、主は、この聖霊の役割を、説明なさいます。「弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」(ヨハネ14・26)と。▼聖霊の時代には、主は、常に聖霊によってわたしたちを教え、導き、特にイエスのおことばを實行できるように育ててくださるのです。聖霊体験こそが、信仰体験の土台です。(博)

# ヨゼフ川崎忠紀師の司祭叙階式

ヨゼフ川崎忠紀師の司祭叙階式が、5月5日、正午より仙台司教区カテドラル大聖堂で、溝部司教の司式によって行われました。

受階者の出身地である青森や新司祭の派遣地である盛岡からも大勢の信徒が列席し、聖堂内は熱気に包まれました。

## 叙階式ミニアルバム



入祭の歌を歌う川崎師とご家族



司教から訓話を受ける



司祭たちの接手を受ける



司教と共にミサをささげる



叙階式は正午の鐘の音とともに始まりました。溝部司教が「主なる神とわたしたちの救い主イエス・キリストの助けによって、この兄弟を司祭団に迎えることにします」と宣言されると、大きな拍手が聖堂内に響きわたりました。

溝部司教は司教訓話で、以下のとおり話されました。

「すべてのキリスト者は、キリストの共通祭司職を持っています。しかし、キリストはある人々を特に選んでご自分の使命

に特別に参加するようにお召しになっていきます。これが叙階の秘跡によって選ばれ、聖化される司祭です。司教が司祭と共におこなう接手によってこの聖堂を聖霊でいっぱいにするのです。そして聖霊は司教の唱える言葉を通してこの人を聖化します。キリストの司祭へと変えていきます。

は欠点も過ちも多いのですけれども、彼らには神の霊を呼び起こすかけがえのない権能が与えられます。しかしこんな大それたことが人間にできるでしょうか？ 大きな使命と与えられた権能の前にすべての司祭は少なくとも司祭叙階の前には震えおのいたものです。心配するな、私は世の終わりまであなたと共にいるとキリストは約束してください。

川崎忠紀さん、あなたは師であるキリストにおいて、司祭として教え導くという聖なる務めに携わることになります。自身が喜びをもって受け入れた神の言葉を、すべての人に分け与えてください。そして、神の言葉を黙想し読んだことを信じ、信じたことを教え、教えたことを実行するように心がけてください。そしてあなたの教えが神の民の糧となり、日々の行いがキリストを信じる人々の喜びとなつて、言葉と模範を通して神の家である教会を築いてください。

その後、受階者の約束、諸聖人の連願、接手、叙階の祈りを通して新司祭が誕生し、新しい祭服を着た川崎神父と、50名を超える司祭とともに、感謝のミサが喜びのうちにささげられました。

【川崎師略歴】  
1967年 青森市に生まれる  
1996年 本町教会で受洗  
2003年 浪打教会で助祭叙階

# ケセン語訳聖書ローマへ行く

カトリック大船渡教会  
山浦 玄嗣

2004年4月28日、ローマは快晴だった。ケセンからや

て来た紋付き羽織袴に身を固めた男たちと色美しい和服の女たちが櫛造り漆塗り銅板飾り金具付きの文庫に収めたケセン語訳四福音書を捧げ持ち、聖ペトロ大聖堂前の広場に参集した全世界からの巡

礼一万五千人の前で教皇ヨハネ・パウロ二世の御前に進み出た。

教皇庁立グレゴリアン大



台教区からやって来たこの者どもは、人口わずか八万の彼らの言葉ケセン語に四福音書を翻訳し、聖下に献上すべく参上している。この言葉は会場を埋め尽くす大会衆にも紹介され、世界はケセン語を知った。

た」とお声を賜った。わたくしは御前に膝行して御右手の指輪に接吻した。ケセン遣欧使節団の目的が果たされた。【写真】  
盛儀の後、さらに濱尾文郎枢機卿への謁見とケセン語訳聖書の献呈式が行われた。朗読聖書制定の責任者梅村司教さまと東京大神学院院長の平田神父さまも列席された。枢機卿はバチカンの公式見解を語られた。ヘブライ語のガリラヤ方言を話すイエスの言葉はまずローマ帝国の国語であったギリシャ語で書かれ、ラテン語に訳され、千年余の時間を隔ててやがてマルチン・ルターによつて民族語ドイツ語に訳された。

聖下はことのほか御機嫌麗しく我々を祝福し、「よくぞやっ

気仙衆(けせんし) 28人はローマを後にし、故郷に向かった。

## 春の「後藤寿庵祭

去る5月23日(日)、水沢教会にとつては年間の最大行事である、春の「後藤寿庵祭」が行われた。

後藤寿庵は、当時、荒地地同然だった胆沢(いさわ)平野に堰を作り水を引き、今では豊かな穀倉地帯となった基礎を築いた人として、地区民に慕われ、尊敬されている。そして、私たち信者にとつては、キリシタン弾圧が激しくなってきた時代に、自らの生き方を通して、信仰を伝えていった「宣教者」としても忘れられない人となつて

いる。



それ以後、各国の標準語に訳されて今日に至る。これがついに民衆の生活語である方言に訳され、福音がまことの意味で民衆のものとなる。世界の文化史上に記録されるべき出来事である。新しい世紀がこうして始まるであらう。

また、突然の任命で、高松教区へ異動されることが決まった溝部脩司教が、「直接、皆さんにお話しする機会はどうも無いかもしれないので」と前置きしながら、ご自分の同郷で、ローマへも行きまた水沢の地でも働いた、ペトロ・カスイ岐部神父に焦点を当てて講演した。

参加者は、天候にも恵まれ、実り多い一日を過ごした。

### 後藤寿庵祭に参加して

豊屋丁教会・佐藤恵子  
初対面の寿庵は、昨夜の雨を思いつきり吸い込んで、だ初夏の陽を浴び、眩しく輝いて迎えてくれました。

キリストと出合い、改名までして主の弟子として生きること誓った武士の心意気漠の地を豊かな田園に替えた郷土士の心意気に、言葉を呑みました。

郡山教会・木村 幸穂

## 殉教地 黒川塚に巡礼して

6月6日(日)三位一体の祭日に、会津若松教会と郡山アズミック(無原罪の聖母宣教女会)の精神を使命に生きる会)主催で

黒川塚に巡礼した。当日は、梅雨が心配されたが、聖人のとりなしか晴天に恵まれ



よき巡礼日和となった。会津から70名、郡山から20名の参加があり、塚の広場は満員となった。ミサの前に牧野牧夫氏より由来の説明があった。会津の蒲生氏はキリシタン大名で有力な家臣にも信者が多かった。三代将軍家光の弾圧と迫害に遭い、寛永12年(1635年)12月17日、バテレン等60余名が逆さ吊りで処刑された。昭和32年この地区を整理していた時に人骨が見つかった。それ以来、塚での野外ミサが三位一体の日に行われるようになったとのことである。その後、ブランカス神父の司式で厳肅なミサがささげられた。説教では、「死に至るまで神に忠実であれ。独り子を信じることによつて復活の喜びを受けろ」と信徒達を励ました。

ミサ後は、伝統料理の田楽に舌鼓を打ち、午後は学習会で野口英世の恩師 山口鹿三がいかに教会の発展に貢献をしたかを学び、有意義な一日を過ごすことが出来た。

# 仙台光が丘スペルマン 病院増改築完成

去る4月15日(木)、財団法人光が丘スペルマン病院(理事長 鷹觜達衛、仙台市宮城野区)の増改築落成祝別式と祝賀会が行われた。

祝別は、溝部司教によって行われ、市内各病院代表、地域社会の代表、信徒代表など約100名が参列した。

スペルマン病院は、1955年9月、小林有方司教により、当時結核に悩む人々の救済のため



めに、ドミニコ会のビゾンネツト師の尽力と、ニューヨーク大司教区のスペルマン枢機卿をはじめ、仙台駐留の米軍家族、パチカン、そして信者有志の資金援助によって設立されたカトリック病院である。

しかし約50年の年月を経て老朽化が進んでいる中で、平成15年第4次医療改革の発令を機会に、スペルマン病院では、従来の152病床を、「一般病床」と「療養病床」とに分け、一般病床88床、特殊疾患病床32床、ホスピス病床20床等、計1

40床の病院に転換することを決め、約3億円をかけて、昨年7月から増改築の工事に入り、この4月その完成を見たものである。【写真上】

なお、スペルマン病院には、内科(呼吸器科・循環器科・消化器科・神経内科・リウマチ・膠原病科・アレルギー科・人間ドック)、小児科、産婦人科、ホスピス(緩和ケア)等の診療科目があり、「愛をもって奉仕、人間の尊厳を大切に、祈りつつ努力する」という理念のもとに経営されている。

感謝の会において鷹觜達衛理事長はじめ院長先生から感謝の言葉と温かな励ましの言葉を頂いた。後に続く会員からの色紙や、10年のあゆみを手作りアルバムにし、喜びを共にした。窓からは満開の桜が皆を祝福しているようにさえ感じられた。10年の長さの中には、つまずきもあり、神が共にいてくださるからこそ無事に歩めたのだと感謝の想いひとしおであった。〈10年間ボランティア活動をした方々〉(敬称略)

【写真前列右から】薄井慈恵子 笠原一枝・白石みね子・若木レイ子・(円内) 斉藤みね子

## 典礼の霊性を深める

神学顧問 佐々木 博

信仰の豊かな源泉である典礼

〔『典礼憲章』14項〕

ミサの第一部「ことばの典礼」において、みことばの豊かな宝庫が開かれます。A年、B年、C年と三年の周期において、聖書の大切な箇所がすべてが朗読されるように配分されています。信仰を生きるとは、みことばを生きることには他なりません。第二イザヤの口を通して、父なる神は、呼びかけておられます。「耳を傾けて聞き、わたしのもとに来るがよい。聞き従って、魂にいのちを

得よ」と(イザヤ55・3)。

さらに信仰は、ただ守るだけではなく、豊かな実を結ぶことです。「あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。あなたがたが豊かに実を結び、わたしの弟子になるなら、それによって、わたしの父は栄光をお受けになる」と(ヨハネ15・7、8)。

典礼暦によって

救いの神秘を生きる

毎年、典礼暦に従って一定の日と時期に、キリストの救

いの業を記念し祝います。キリストの救いの神秘全体を一年の周期で記念しますが、それは待降節に始まり、降誕節、年間、そして、四旬節、復活節と進み、また年間に戻ります。キリストの救いのみ業は、「超越の神秘」によって成就されますので、「聖なる超越の三日間(聖木曜日・聖金曜日・復活の主日)」は、典礼暦年の頂点であります。このように、典礼活動こそが、信仰の最も豊かな源泉となります。



「あなたがいてくれたから」  
スペルマン病院・ホスピスボランティア 天形加代子  
Sr. リーズのご指導のもとに始まったスペルマン病院ボランティア活動が、今年で10年を迎え、4月13日、10年継続の5名の方をたたえ感謝の会がホスピス棟において開かれた。  
「愛をもって奉仕・人間の尊厳・祈りと努力」の理念をモットーに、日常ボランティア42名、専門ボランティア30名、パストラルケア・ボランティア7名と、80名近い会員が仙台教区7つの教会から集まっている。中には求道中の方も多く、共に学びつつ活動している。



# 特集：ありがとう！溝部司教様

5月14日、日本時間午後7時、ローマ教皇庁から仙台教区長・溝部脩司教様の高松教区への転任が発表された。仙台教区の信徒にとつては、まったく寝耳に水、晴天の霹靂というところであった。

神への信頼以外に、この現実を受け入れるべきがないと誰もが思ったことだろう。

溝部司教様も、やっと仙台教区の風土や環境に慣れ、少しづつ取り組んでおられた司牧の計画を、これから本格的に推進しようと考えられていた矢先のことだったであつたらうと推測される。

司教在位4年弱、溝部司教様が仙台教区に残してくださったさまざまな恩恵に感謝し、高松教区でのお働きに神のご加護を祈りつつ、お送りしなければなりません。

司教様への感謝の一言を募集したところ、短期間にもかかわらず、たくさんの方々が寄せられた。

ここに、一部を掲載し、信徒一同の感謝の気持ちを表すこととしたい。【編集部】

## ▼昼屋丁・佐藤英樹

教区の司牧体制が整い、青年も壮年も意気盛んになり、ミサの本質も理解され、東北キリシタン史研究もこれからというのに。

人柄が良くわかる本でした。

## ▼いわき・大和田照子

昨年秋から体調を崩していた折に、ご著書『朝の光の中に』を朝晩少しずつ読ませていただき、たくさん気づきと、物の見方、考え方を教えた。

俊吾

東仙台・笠原一枝、武内洋子、えり子、綾子、さやか・

司教館のお席も温まる間もなく東奔西走、たくさんのお仕事をこなし、若者と語り合

い、みことばを運んでくださいました。「一人ひとりが変わらなければ」と諭してください、「沖へ漕ぎ出せ」と勇気をつけてくださいました。仙台の地に残してくださいました司教様の足跡を踏みしめて前を向いて歩いていくことをお約束します。司教様ありがとうございます。新しい任地での神様の祝福をお祈り申し上げます。親・子・孫ともどもお世話になりました。

## ▼白石・佐藤ふみ

司教様のご転任に思わず涙がこぼれました。『朝の光の中に』の本の表紙の言葉に心を打たれ、それを色紙に書いて朝夕眺め心の糧としていました。「私をふさいでいる石を取り除いて下さる神」この言葉をいつまでも心に留めておきたいと思えます。

## ▼釜石・千田 栄

司教様とお会いできたことは、大きな恵みでした。青年たちとの交流、黙想会は忘れられません。「熱いのか冷たいのかわからない」私の信仰生活を振り返りきつかけとなりました。小さな私に言葉をかけて下さり感謝いたします。

## ▼志家・小針久典

「聖書の言葉を本当に心から味わっていますか」という司教様からの問い掛けの言葉が不思議に耳の奥底にこびりついていきます。みことばを深く味わうことは努力や研究心が大事だと教えていただきました。ありがとうございます。

## ▼会津若松・市川裕子

殉教祭に初めて参加したのは2002年の6月の三経塚でのミサです。司教様は説教の中で、「毎日が殉教です。ミサは自分のためにあるのではなく、みなのためにあるのです。」と話された言葉は週日ミサ行きの原動力となっていました。

## ▼青森市・平井柳子

「ミサはいけにえである」これがミサの基本です。奉献

文の最初に「まこととうとくすべての聖性の源である父よ、いま聖霊によつてこの供え物をとうといものにしてください。」と唱えながら司祭は手を伸ばして聖霊を求め祈りをします。その祈りと按手を通して聖霊が祭壇の上に降ってくるのです。これを司教様にごミサで教えていただき40年間何も知らなかった私は感涙致しました。

## ▼志家・佐藤久仁子

小教区の信徒の中に降り、気軽に声をかけて下さった司教様。昔の殉教者の強い信仰に基づき私たちに揺るぎ無い信仰の道を教えて下さいました。原城跡の雷雨の中、親鳥の羽の中で祈ったロザリオを大切に心に留めて歩んでいきます。

## ▼元寺小路・工藤愛子

溝部司教様、本当に有難うございました。聴覚障害者にとつて司教様の話がプリントされ、読みながら理解してゆけることは何よりも嬉しかったです。言葉で表せないくらいでした。――救いのみ言葉をわたしにも聴かせて下さい：―ガリラヤの丘で弟子



# 特集：ありがとう！溝部司教様

たちを：—この歌が私の心の  
中を駆けめぐっています。と  
ても明るい気持ちになりました。  
た。どうぞ、司教様また仙台  
でお話を聴かせて下さいませ  
ご健康でお過ごし下さいませ  
様お祈り申し上げます。

▼昼屋丁・山田虎夫

司教様は風。短期間に教え  
諭され、四国へ。戦前私も四  
国で生活し、高い山では雪も  
積もります。山はけわしく猪  
もいます。戦中は八幡浜の西  
方まで、段々畑、伊予村、お  
遍路さん、カンコ口飯、さべ  
つもあつた。お気を付けて。

▼元寺小路・篠原るり子

司教様、長崎から北国へい  
らして三年間、ありがとうご  
ざいました。聖歌の歌い方で  
迷ってしまいました。静かに  
ささやく様におさえていまし  
たが、祈りの気持ちのままに、  
力強くうたつてもよいのだと、  
自分に正直にこれからも歌っ  
ていきます。

▼北仙台・村中家一同

“祈りの気に満ちた教会にし  
てください”。北仙台教会 50  
周年の時の言葉です。司教様  
はいつもそのとき最も必要な  
事、本質に関わる事だけを分  
かりやすく話されました。司

教さまこそ”祈りの人”。私  
たちはその中にイエス様を見  
たのです。心からの感謝と祈  
りのうちに。

▼一本杉・海老澤千代子

溝部司教様のロザリオの祈  
りの教えの中にこんな言葉が  
ありました。「ロザリオは典  
礼の祈りを助けるためにある。  
形と本質は祈りのバランスに  
ある。祈りのバランスが崩れ  
ると人生が崩れることがある。  
あなたの心があるところに、  
あなたの宝がある。人生は野  
の花である」。私たちもこうあ



りたいと思います。このよう  
な教えを頂いた司教様に感謝

▼五所川原・岩谷松代

司教様と津軽半島最北端の  
地、竜飛崎に遠足に行ったの  
は一昨年 10 月でした。緑深い  
中山峠を越え、津軽海峡を眺  
めながら、聖歌を歌い、津軽  
切支丹の歴史をお聞きし、五  
所川原教会としては最高幸せ  
な一日でした。感謝！

▼元寺小路・沼倉久枝

司教様から、終始私たちが  
神様の御旨に添った生き方と  
はどういうことか、基本的で  
大事なことを丁寧に語りかけ  
て下さった。その結果、少し  
ずつ意識が変わり、突き動か  
して頂き、感謝。この一石が  
大波となりますように。

▼東仙台・阿部正子

「優しさで培われた心は成  
熟し、批判で培われた心は未  
熟に留まる」。聖バレンティン  
の言葉を教えて頂き感謝いた  
します。家族や教会・社会の  
中で、又全国各地の姉妹達と  
分かち合い、ともに神の愛を  
実現できるように努めます。

▼古川・渡辺征子

「仙台教区には小さな教会  
がたくさんあり、福音の視点  
から見る時大きな宝である。  
神の目を通して所属教会を見  
直すように」との年頭書簡の  
一節に教区の宝物の教会に所  
属する喜びを感じたことを思  
い出します。小さな教会、高  
齢司祭に、あたたかいご配慮  
をありがとうございます。

▼東仙台・薄井慈恵子

白百合の講堂で、司教様の  
初めての講話を伺った時の足  
許をゆさぶられる様なショッ  
クにも似た感動を原点に戻っ

た思いで今噛みしめています。  
活動の許に疎かになりがちな  
祈りを何よりも大切に、と、  
常々説かれていたと思います。  
昨年の 2 月早朝ミサで身内の  
病む者(未信者にも関わらず)  
の為に深く間を取り祈って下  
さったこと、ただ有難く、今  
は故人になりましたが、どれ  
ほどの癒しと励ましを頂きま  
したのか。すべてに感謝申  
し上げます。

▼元寺小路・中西栄子

溝部司教様のご転任の発表  
以来、教区内外から「どうし  
て？」で始まる数多くの電  
話・メールがまいました。  
振り返りますれば、着座間も  
ない 11 月、婦人会で勉強会を  
していただけの運びとなり、  
ヨハネによる福音書 4 章通し  
て表面的な形式的な祈りでは  
主との一致もなくなる恐れが  
あるという「祈り」について  
のお話は、これからの指針と  
なりました。その後 4 年弱、  
司教様が蒔いて下さった種は  
大きく芽を出し、仙台教区全  
体に根を下ろし、神の民とし  
て実生活にも生かされ成長の  
真っ最中、もっともつとご一  
緒に見守って頂きたかった。  
本当に残念ですが、今まで下  
さった沢山のお恵みを糧に歩

んでまいります。心からいつ  
ぱい感謝とお礼申し上げます。  
▼元寺小路・氏家和人  
簡単に”開かれた教会”と  
口にし、何でも受け入れるこ  
とに当惑さみでした。司教様  
のご講話を拝聴するたびに、  
生き生きとした教会の活性化  
と源流は静かにみことばを深  
く味わうことから育ち、イエ  
ス様の時のしるしを見極める  
判断力の重要性を学びました。  
今後ともご壮健でご活躍下さ  
いますように。

▼元寺小路・氏家忠志

余韻のこの講話、教会の  
一致、聖霊のもたらす一致、  
分け合う信仰、が心にしみて  
います。「福音宣教師の仕事  
に励みなさい。私自身は既に  
いけにえとして献げられてい  
る。私は戦いを立派に：：決  
められた道を走り、信仰を守  
り抜いた。今や義の栄冠を受  
けるばかりです。」(2 テモテ  
4・5〜8)。ご心境まさにパ  
ウロの手紙のように読めるの  
です。父の御心の弁護者を待  
ち望んでいます。ご健康を祈  
ります

▼盛岡上堂・佐々木郁子

昨年 8 月 27 日から 31 日まで  
の雲仙・島原・天草・  
長崎の巡礼の旅に参加し、司

# 特集：ありがとう！溝部司教様

教様からご指導をいただきました。素晴らしい恵みでした。原城で突然雷雨に合

いあずまやに全員入ってロザリオの祈りをささげました。その後昼食の時、私の

向かいに司教様がお座りになり、私はうれしくて言葉も出ませんでした。その時「いつでもロザリオ、どこでもロザリオ、みんな



教え有難

ちゅういちくんとさ わたしと三人 手をつなげるもん (小一・女)

東北の殉教者の講話はいつも興味深く聞かせていただきましたが、さらに深くお聞きしたいところでしたので非常に残念です。高松教区でのご活躍をお祈り申し上げます。

一本 杉・石 崎英子 沢山の

しみ、淋しさが拭い去られませんでした。大聖年12月28日、寒い日でした。 "一条の光"をありがとうございました。

「美樹君(三男)の助祭叙階式は、出身の四ツ家教会でやったか？」と司教様。盛岡や岩手の子供達のことを心にかけて下さったのでした。いつも一つの機会を活かしては、恵みを分配する水路を作ってくださいました。

▼松木町・加藤誠次 司教様転任の事、とても残念です。私は昔、戦地でロザリオを神社のお守り袋にかくし持ち、口語文の使徒信經を心の中でとなえ、見つかったら大変な、そういう毎日をごした者です。ある日、ある時、司教様に「今はこんなに自由になってもキリストを信奉する者、即ち、私たち兄弟が一向に増えないのは何か、社会的にも経済的にも、従ってすべてにおいて貧弱な体質を悲しくさえ思います。これは聖職者の不足か、信徒の怠りなのだろうか。」と問いました。司教様は「いや、キリスト教とはそのようなもので、何か力を持って、大勢の衆力

や、いろいろな権力、財力などによって、自分達の意図することを押し通し、妨げる者あれば力で薙ぎ倒し、踏みつけ何かを勝ち取って進むというものではない。大切なことは、キリストへの結びつきは、愛の強さこそ一番に求められるべきで、目に見えるこの世の栄光や力では決して「ない」と論されました事、一番胸にこたえました。(いのちの門は狭く、そこに通じる道は、細くて、それを見つめる者は少ない)・その時、心に染みましました。ありがとうございました。

▼浪打・日下昭夫 溝部司教様の凄いところは、信仰の根幹(本質)を、分かり易くしっかりと教えてくれることです。私たちが心から納得すれば、現代社会の外観や変貌に惑わされず、変わらぬ信仰を持ち続けることができるような気がします。

▼「朝の光の中に」購読を勧める会世話人一同 司教様の御著『朝の光の中に』の購読を勧める会のお手伝いをさせて頂きました。感謝ミサでのお言葉ヨハネ

さな輪から、大きな輪になる様」とのお諭し、一同心に銘じ努めます。心から感謝。 ▼盛岡上堂・田畑健司 色々とご指導を頂いた溝部司教様が突然仙台を去られることになり、言いようのない空しさを感じております。殉教者のお話を沢山読ませて頂き、司教様の意図されるところですが、今までのお仕事

が必ず芽を吹く時が、あると想像しております。司教様の益々のご健康と高松教区のご発展を心からお祈り申し上げます。

▼角田・斉藤祐子 感動したことば―内輪もめ『朝の光の中で p.39』について。この状況を身をもって体験していますと話されてから、人を尊敬して生き抜く様に励まされ、単語一つ一つに願いを込めて全身全霊で話して下さいました。殉教についてもっと深く知りたいと思うようになりました。神に感謝！

た「ロザリオの祈り」を以前やっていた今はやめていた「ロザリオの祈り」を以前と同じく月の初めの日曜のミサ後又やり始めました。6月のロザリオの祈りは思いがけなく四国においてになる司教様への感謝の祈りとなりました。司教様、本当に、有難うございました。

▼司祭の家・鷹皆達衛 溝部司教様に 「贈ることば」 先生の手、三本あればいいなあ そうすればさ みつちゃんとき

▼いわき・鈴木美智 グローコ神父様が今まさに宣教師として日本の土とならんとしております。その時、後方より軽く肩にふれ御苦労様でしたとの愛に満ちた温かいお声に接し、瞬間絵での悲

▼元篠田教会・二唐 昇 篠田教会閉鎖の時には、何ささげ、みことばを分ち合

# 特集：ありがとう！溝部司教様

励ましと慰めを与えて下さいました。慈父として親しく接して下さいました。特に聖書の読みについてのご指導は目からうろこでした。神に感謝。

▼東仙台・野邊達二郎

司教様のご転任は誠に遺憾でございます。4年足らずの御在位は心から惜しまれてなりません。前任佐藤千敬司教様のご健康を理由に引退なされ、しばらく仙台教区は司教様ご不在の期間が長く、新しい司教様を待望申し上げて居りました。早く新司教様をお迎えしたい思いで仙台教区は新任司教様を渴望して居りました。そこへ溝部司教様をお迎えし、歓喜の内に私たちは安堵と共に迎え居りました。当然末永く司牧を頂けるものと安らかな気持ちで過ごして居りました。この度、突然のご命令でおわかれすることなど、考えられない出来事に驚かされました。司教様は、歴史学者として、殉教者の発掘にご努力をされ、私の郷里二本松の殉教者を明白にして下さいました。いつも温和に私達に話して下さい、その温かいお気持ち

に、慈父の面影を感じ、お慕い申し上げて居りました。お別れは辛いです。お達者で過ごして下さいようお祈りいたします。

▼古川・伊藤日出子



司教様に転任があるなんて知りませんでした。今でもまだ、悲しくて信じられませんが、もしそうならば、近いうちに又、仙台教区に転任してきて下さい。それまで、毎日司教様のご健康をお祈りいたしております。色々お世話になりました。ありがとうございました。

▼志家・戸田 宏

教区長としてご在任中、一貫して典礼、ミサの重要性を強調されたように思う。又、信徒と司祭の役割分担、特に信徒の祭司職としての使命についても。司祭不在のときの主日の集会祭儀と奉仕について

でも。司祭にはできない、かつ信徒に与えられた能力を認識し、社会に広く活用すること。これが共同体づくり、さらに社会の福音化につながると思われた。又、信徒と教会と話された。今、刷新と改革。今後、われわれ信徒への課題であろう。

▼本町・溝江直樹

わたしは、司教区に文句を言ったことがありませんが、今は、ただ溝部司教様のなさったお仕事に敬服しております。ありがとうございます。

▼浪打・戸山美代子

司教様が転任されることを伺い、大変残念に思いました。でも、神のお恵みの場所でもあることと思ひ、陰ながらお祈り致しております。溝部司教様のお話はとてもわかりやすく、『朝の光の中に』の本を読んで、目からうろこが落ちるような心にしみ、一步一步神のもとに共同体として、皆と手を取り合って信仰生活を生き生きと歩み続けることが出来るように祈りながら、励んで行きたいと思ひます。溝部司教様が、高松教区長として、ますますよき働きをなされることをお祈りもうしあげてお

ります。▼八木山・大島喜四郎  
2000年の初夏、バチカンのホームページで、仙台司教のニュースは嬉しかったです。お目にかかったのは、叙階前のカトリック宮城県大会。以後わたしは視覚障害ゆえに、お気遣いをいただきました。

01年8月、長崎五島の巡礼  
教皇来日20周年広島記念ミサへの参加  
02年5月、日本教会史(キリシタン史)を学ぶ会。  
8月の天草、島原、雲仙の順境地の巡礼などで、新しく変わろうとするわたしへ



の、やさしい交わりをいただきました。任地での、主のお見守りを祈ります。

溝部司教様、本当にありがとうございました。 仙台在住シスター一同  
2004年6月20日 オタワ愛徳修道女会本部修道院にて



# 溝部脩司教語録

(年頭書簡より)

溝部司教様は、私たちに繰り返し繰り返し語ってくださいました。「信仰に基づいたものの見方」、「みことばを味わうこと」、「祈りを生活の中心にすること」、「信徒の役割」、「司祭の役割」等々。

司教様はよくおっしゃっていました。「くりかえし、くりかえし語ることで、人は変わっていきます」と。

司教座空位になった仙台教区は、溝部司教様が残してくださったメッセージを心の糧として、私たちの信仰と、教区共同体の一致を深めていかなければなりません。

ここでは、溝部司教様が、私たちに熱く語られた言葉を取り上げてみました。もちろん、前後の文脈から、その真意を深く読み取ることが望まれるのですが…それは、個々の皆様におまかせいたします。

ここでは、溝部司教様の残してくださったことばを味わっていただ

◆神によつて集められた神の民が教会であり、何よりもキリストのことば、生き方を中心において一致を目指して集います。イエスというお方が民を導き、共同体をつくって下さいます。従つて私たちに出来ることは、まずみことばを深く味わい、祈りを深くすることが先決です。

(2003年)

◆(信徒にとつて) 大切なのは社会の隅々にまで信徒がキリスト教徒として、その福音に従つて生きることです。あたかもパン種のように社会の内部に働きかけ、社会そのものを福音化する働きをします。社会のあらゆる場所に生きているのは信徒だからです。

(2003年)

◆家族揃つて教会に行くように努めてください。神の前に家族全員で跪いて祈る時に、真の家庭の一致が生まれます。家庭の中に神の霊が働くからです。一緒に教会に礼拝に来て、必ず家族の一人一人のためにお互い祈つてください。種々の理由で家族全員来れないという方がおられるでしょう。あえて申し上げます。何かの形で一緒に祈る時間をつくってください。祈りこそ家族を一つに結びあわす力です。

(2001年)

◆私も聖パウロに倣つて、皆様におすすめしたいのは、「信仰に基づく」兄弟愛に満ちた教会をつくっていききたいことです。

(2002年)

◆教会の集まりの基本には、その全ての会合、活動において、中心にすえるのはみことばです。

…どんなことをするに際しても、みことばを真ん中において考える習性を持つことが肝要です。…聖書を読み込んでいなければ、信仰生活の深みには到達できないのです。

(2002年)

◆仙台教区には大きな教会がある訳ではありません。そして、それこそ教区の誇りなのかもしれません。教区には本当に小さな教会がたくさんあります。これらは福音の視点から見るとも大きな宝なのです。力に頼り、知識に頼り、合理化に頼り、全てを自分の頭でしか見ることができないこと、これが世俗化なのです。



人間の弱さ、欠点がたくさんあるでしょう。それだからこそ、キリストへの信仰において愛し合っている教会の姿は美しいものです。…私たちの主は馬小屋で生まれ、十字架につけられて亡くなったのです。これが私たちの求めている信仰の究極なのです。人間の目だけで教会を見ると、弱さの中に神の栄光が現れるというものの見方が決してわかりません。

(2002年)

◆十字架にかけられたキリストと共に私たちも自分を十字架につけて、その私たちが神様はごらんになって、この世界の人々に必要な恵みをお与えになるのです。私たち信徒の最大の務めは、キリストの祭司職を果たすことです。

(2002年)

◆司祭にとつても、最大の務めは信徒を聖性、聖人になる道へと導くことです。司祭はそのために何よりも秘跡を大切にします。秘跡の執行を通して人々に神の愛、恵みを配ります。司祭のリーダー性とは聖霊の力を通して、共同体の一致をつくりあげることにあります。司祭はみことばを信徒に伝え、彼らを励まします。秘跡を受けることで信徒は、自分の召命に生きるように励まされます。信徒が信仰者として生きるように助ける役割が司祭の基本です。

(2003年)

◆祭司とは、人々の願い、祈りを神に持参し、神からの恵みを人々にもたらす、このような役割を果たします。私たちはキリストと共に自分を献げ、人々のために祈ることで自分の祭司職を果たします。洗礼を受けた私たちの一番大きな役割はこの祭

司職なのです。

(2004年)

◆司祭が司祭の役割を理解すること、信徒が信徒の役割をしっかりと理解することから始めて頂きたいということです。そのためにはまず、信徒の共通祭司職と司祭の役務的祭司職の区別をしっかりと理解することです。

(2004年)

◆キリシタン時代は現代を生きる教会に多くの示唆を与えています。要は司祭が司祭の役割に徹する、信徒が信徒の役割を最大限に生きる、ここにきます。危機的な状況を仙台教区は迎えています。しかし、決して悲観的になる必要はありません。神様は何かの形で教会を守り、発展させてくださいます。信賴して、自分たちでできることは何かをしっかりと理解し、共に手を取り合つて歩むこととしましょう。

(2004年)

**第2回 仙台司教区活性化のための研修会**  
**「ミサへの生き生きとした参加」**  
**活力源となるミサに生き生きと参加するための提言**  
 仙台教区長 溝部 脩 司教

研修会は、主日を祝うミサが信仰生活の活力の源となっているかどうかを振り返り、小教区共同体の中でどのような働きをする事が小教区の活性化につながるかを意識することを目指して、各県ごとに司教の基調講話と、グループに分かれての分かち合いの形で行われた。今回は、司教講話要旨の続きと、岩手県(2月15日)、福島県(4月25日)で開催されたものについての報告を掲載する。

【司教講話要旨―その2―】  
**2. 聖歌隊の役割と典礼聖歌について**

「聖歌隊は会衆の信仰を強める助けとなったり、祈りへと導いていく大切な役割」

ミサの中で、「聖歌隊」はとても重要な役割を持っています。その目的は、祈りのできる状態に会衆を誘うことにあり、それは奉仕することです。このことによって、みんなの祈りも変わっていき、ミサが生き生きとしたものに変わっていくと思います。

歌うことにも裁量が必要です。必ずしも典礼聖歌ばかりを歌わなければならないというものはなく、必要に応じて自由に変化させていいのです。

心の底から、神に向かう気持ちで溢れ出るように歌えることが

応じて、楽器を取り入れることも可能です。ギターを使うこともよくあります。入祭の歌にトランペットを入れ、子供たちがマーチにあわせて行進するというのもあります。

大事なことには、会衆みんなの信仰を強め、祈りへと導いていくということが聖歌隊の役割です。聖歌隊はミサを生き生きとさせるためにとても大切な役割を担っているのです。

皆さんも聖歌隊に感謝することを忘れないで下さい。そして、聖歌隊の皆さんは、ミサを良くするも悪くするも自分たちであると思っしてほしいのです。



子どもと共に、青年と共に、外国籍信徒と共にささげるミサとそれらの状況に適應できる可能性

子どもと共に、青年と共に、外国籍信徒と共にささげるミサとそれらの状況に適應できる可能性

子どもと共に、青年と共に、外国籍信徒と共にささげるミサとそれらの状況に適應できる可能性

徒の皆さんと、「ひとつになろうキリストのうちに」というテーマを掲げ、その準備も着々と進んでいるようです。

グローバルな時代に、さまざまな形で、さまざまな人々の必要に応じて、ミサそのものを考え直していくための良い機会です。

子どもとともにささげるミサですが、子どもの忍耐を超えるようであってはいけません。子どもの目線で捉え、子どもの理解できる範囲内で、子どもなりのテーマを考え、それに沿って準備をしていくことが大切です。

子どもなりのテーマを考え、それに沿って準備をしていくことが大切です。子どもなりのテーマを考え、それに沿って準備をしていくことが大切です。

子どもなりのテーマを考え、それに沿って準備をしていくことが大切です。子どもなりのテーマを考え、それに沿って準備をしていくことが大切です。

子どもなりのテーマを考え、それに沿って準備をしていくことが大切です。子どもなりのテーマを考え、それに沿って準備をしていくことが大切です。

# 「活性化のための研修会」報告

(岩手県・福島県)

あるかどうか、すべてがこのことに尽きるのです。(完)

## 【岩手県】

日時 2004年2月15日

(日) 午後1時～4時

▼岩手カトリックセンター

▼参加人数 65名

\*話し合いの主な内容

1. ミサとは自分の信仰に  
とって何か。

生きる力・日常生活の力・いのちのエネルギーをいただくもの・神との対話・神との和解・キリストとの出会いの場・信仰を確認し、深める場

2. 共に集い祈ることが喜びとなるために私に何ができるか

・ 祈りである聖歌を皆が歌えるように、聖歌隊のリードの向上を図る。

・ 子供と共に参加できるように、リーダーを養成したい。  
・ 共同祈願をつくる奉仕。  
・ 朗読、オルガン伴奏、花を生けるなど。

・ 転勤してきた信者を受け入れる雰囲気づくり、声かけ。

3. ミサから派遣されて日々を生きる私達の日常生活を振り返る。

・ 家族と共に祈るように努力している

・ 若いときはかくれキリシタンのなどころもあったが、年齢とともに公に生活できるようになった。

・ 派遣されている意識が弱い。

・ ミサ後すぐ忘れる。だからまた行く、のくりかえし。

・ いただいた恵みが日常生活に生かされていないことが多い。

・ その日一日心の状態は安定して、喜びで満たされていると実感する。

4. 今後の課題・反省点

・ 「グループで話し合っている時、隣のグループの声がうるさくて聞き取れなかった」という苦情があった。高齢化で耳が遠くなってきたということもあり、会場や人数などの制約も多いが改善したい。

・ 分かち合いは、示された三つのポイントに忠実に行ったが、むしろ講話そのものに基づいて

進めた方がよかったのではないかとと思われる。

5. 感想

・ 「自分たちの教会に帰って、研修会で得たヒントや司教様の勧めについて話し合い、具体化していこう」という発言に意気込みを感じた。

(四ツ家教会 関谷 秀雄)

## 【福島県】

日時 2004年4月25日

(日) 午後1時～4時

▼会場 カトリック郡山教会

▼出席者 65名

分かち合い(5分科会)

\*グループ別分かち合いでの話題

\* 司祭召命の必要性、聖体奉仕、司祭不在の集会祭儀

司祭不在の集会祭儀

\* 信徒と司祭の役割分担の必要性が認識された。

\* 典礼奉仕は大切な信徒の役割

・ 準備期間において奉仕する(侍者、先唱者、聖歌隊、朗読者など)

・ 奉仕の意義が理解できた。

・ 聖歌は祈りである。

\* ミサにあずかれない人のために祈る。

\* 小教区に帰って皆で話し合うようにしたい。

\* ミサの基本を理解することーい

(松木町教会 菅野 明)

のちを与えるご聖体のこと(聖体奉仕・司祭不在の集会祭儀)

\* 典礼参加者の分かち合いの時間

と場所(皆で喜び合う)

・ 教会、信仰共同体の組織とまとまり

\* 教会でのグループの育成(幼児・小中高生・青年姉妹会など)

\* 司教様の講話が分かり易く、信徒の役割の重要なことが理解できた。

## 新米神父行状記

川崎 忠紀

### 初ミサへGO!



現在僕は、土・日曜はよくあちこちの初ミサに呼ばれて出かけております。「初ミサ」とは、新司祭がその教会でする初めてのミサのことです。

5月のある土曜日は、東京の教会に呼ばれていて出かけました。その土曜の朝、盛岡はかなり寒くてセーターか長袖を着てちょうどいいくらいの曇り空。どうしようかと悩んだ末、「東京はもっと暑いはず」と、半そでで行く事に決め、礼服を羽織って出かけました。

教会のある町へ着き駅から出ると、アスファルトからの暑い風が吹き付け仙台の夏をはるかに越えた東京の初夏が始まっていました。

神父さんに「東京は暑いですね」と、言うとう今日休む部屋のエアコンを入れてくださり、以前この部屋に泊まっていたときは、窓を全開にして寝たんだよなーと、神父さんの白髪が増えたのを見ながら時間の経つのを感じた初ミサでした。

\*今回より川崎神父のご協力新しいコラムを掲載します。【編集部】

# 献堂 50周年を迎えて

## カトリック大船渡教会

6月13日(日)、カトリック大船渡教会は献堂50周年目の節目を迎えた。

奇しくも50年目の記念年の4月に、当教会の信者である山浦玄嗣さんが翻訳したケセン語訳新約聖書の四福音書が完成し、4月28日にローマのバチカンにて教皇様に直接お渡しすることができ50周年に花を添えた。

50周年は「一足外さ飛び出すベア!」というテーマで行われ、記念ミサと祝賀会には県内各教会の信者さんやゆかりの人たち、また地域の人たちなど1



50人の参加者で聖

堂はいつぱいになった。ミサは溝

部司教と5人の司祭による共同司式で行われ、朗読や聖書、共同祈願などはケセン語で行

われた。県内の教会から参列してくださった信者さんは、最初は戸惑いがちであったがすぐに慣れ、ケセン語の聖歌と一緒に歌っていた。ミサ後の祝賀会では、ケセン語訳聖書と岩谷堂

筆筒の手文庫が司教館に寄贈された。これは、教皇様に献呈したものと同じものである。

この日は溝部司教が高松への移動直前ということもあり、ごミサと祝賀会の合間には多くのグループが司教様を囲んで写真を撮っていた。(熊谷)



## 仙台教区新任司祭

2004年度、仙台教区に新たに派遣された司祭としてリゲンザと祝賀会の合間には多くのグザ・スタニスワフ神父(郡山教会)とユン・ヨオク神父(仙台中央地区)のプロフィールを教区報156号に紹介しましたが、この度、両神父様から、自己紹介と挨拶が届きました。



### リゲンザ・スタニスワフ神父

リゲンザ・スタニスワフ神父です。この4月から

ら伝統あるカトリック郡山教会に東京都渋谷の聖ドミニコ会修道院から参りました。

生まれは、ポーランドです。

1991年叙階、1992年初来日、1994年、二本松教会に赴任し、6ヶ月お世話になりました。1994年、渋谷カトリック教会助任司祭になりました。1999年、アメリカが衆国・シカゴ・ニューヨークな



### ユン・ヨオク神父

どの中学校で歴史などを教えるほか、教区の黙想会の指導、そのかたわら心理学を学び、刑務所、精神病院などでカウンセリングのボランティアをいたしました。2003年、再来日、東京の聖ドミニコ会本部にて、信徒の指導をしました。郡山教会での宣教には特に、青少年の指導、フィリピン、その他の外国人信徒に対しての英語のミサをしています。聖書の勉強・英会話講座を開設し、青少年に対しての宣教に力を入れたいと希望しています。

皆様にお会いできて嬉しく思います

す。古いキリシタン時代からの歴史と伝統のある仙台教区で生活できるようになったこと、そして尊敬する司教様と先輩司祭の方々、祖国を離れて神の国のために奮闘しておられる方々と一緒に活動できるようになったことを大変喜ばしく思っております。

私が今から20年前にソウルのカトリック大学を卒業する時、私の恩師が私に教えてくれた言葉が今も聞こえてくるようです。「皆様は、神父になる前に司祭になってほしいです」また、ある新しい司祭が、初めてのごミサをささげながら信者たちにおっしゃった言葉が思い出されます。「いつか私がこの世を去るとき、神様のための聖務を執りながら死ぬようにお祈りください」

多くの司祭たちの足跡が残るこの地で、司教様のお言葉に従い、神の国の実現のために少しでも役立てるように努力いたします。

先輩司祭の方々が、今まで築き上げたことを土台にし、同僚司祭と力を合わせて一歩一歩、初めて歩き方を覚える気持ちで奉仕者としての道を歩もうとしております。取り急ぎこの紙面を借りてご挨拶申し上げます。ありがとうございました。